

# 出版企画

鎌田 薫 監修  
早稲田大学「東日本大震災復興研究」編集委員会 編

## **東日本大震災復興研究** (仮)

—災害に強い社会の実現に科学は貢献できるか—

2014年8月1日

(株)早稲田大学出版部

## 企画の狙い

東日本大震災以後 3 年間に大学（とりわけ早稲田大学）は何を研究・教育し、いかに行動したか。その成果を、将来を見据えた中間総括として報告し、「災害に強い社会」の実現に向けての次のステップ・方向を提示する論文集を刊行する。

## 内 容

東日本大震災と福島原子力発電所事故の原因・被害・対応・復興・予防などについての研究と活動に関わる書下しあるいはライト論文 50~60 本を収録する。

各論文は、早稲田大学での震災研究プロジェクトの形態や規模の大小にかかわらず、研究・活動の目標、方法、プロセス、成果（発見）、評価、今後の課題を報告していただくもの。

純粋にアカデミックな研究に止まらず、公共団体やボランティアの支援活動に参加しあるいは協力して展開された調査・研究から得られた知見を含む。

研究論文でも、専門外・隣接分野の研究者や学生、実務家にも概略が理解できるような記述を行う。

単著論文・共著論文のいずれも可とする。

## 体 裁

B5 判 横組み 500 ページ ソフトカバー

（専門外の人にも読んでもらえる親しみやすい書物とする）

価格 5000 円＋税

発行部数 1500 部

刊行時期 2015 年 3 月 11 日

※ 大学図書館・研究機関への普及を目的に、電子版をも制作し、丸善 eBook Library, 紀伊國屋書店 Net Library で販売をする。また、個人向け電子版も検討する。

## 対象読者と用途

震災関連研究者（自己の分野以外の研究成果との接点を提供する）

全国の大学・公立図書館（震災の諸側面の記録文書として）

全国の高等学校（進路選択の手引きとして）

官公庁・自治体・企業・シンクタンク等の実務家（文字通り実践的記述が満載される）

大学生・大学院生

## 編集・執筆態勢

### 1. 編集委員会

監修者 鎌田 薫

編集委員 深澤良彰（理工学術院，編集委員長）

須賀晃一（政治経済学術院）

須網隆夫（法学学術院）

浦野正樹（文学学術院）

本田恵子（教育・総合科学学術院）

佐々木宏夫（商学学術院）

柴山知也（理工学術院）  
中川武（理工学術院）  
早田宰（社会科学総合学術院）  
根ヶ山光一（人間科学学術院）  
内田直（スポーツ科学学術院）  
松岡俊二（国際学術院）

編集委員には、

①基本プラン作成，②執筆者の推薦と掲載論文の決定，③出版実務の助言・監督に当たっていただく。

## 2. 各論文の執筆者

- ①早稲田大学の各研究・活動プロジェクトの代表者・あるいはグループ  
個人著作，連名の共同著作，研究室・研究会等の団体著作（参加者名明記）の別を問わない
- ②早稲田大学の専任教員・職員，客員教授，名誉教授，元教授，大学院生・学部生，早稲田大学校友
- ③他大学・団体・企業の研究者や実務家・学生等の共著者としての参加も歓迎する
- ④そのほか，編集委員会が寄稿依頼する人

## 構成

### 1. 部・篇別構成案（素案・各篇に数本の論文が配置される）

#### はじめに（鎌田薫）

##### ①災害の原因と防災に関する研究

- 1) 地震発生の機制と予測
- 2) 東日本大震災での津波被害
- 3) 地震・津波の被害予測
- 4) 天災か人災か

##### ②インフラの被害と復興に関する研究

- 1) 住宅
- 2) 公共機関（学校・病院・役所・消防）
- 3) 物流（港湾・鉄道・道路・橋梁）
- 4) ライフライン（エネルギー・上下水道等）
- 5) 環境（被災ゴミ・土壌汚染・大気汚染・水汚染）

##### ③災害に強い社会システムに関する研究

- 1) 危機におけるコミュニケーション
- 2) 救援システム（自治体・警察・消防・自衛隊・NPO・ボランティア）
- 3) 法制度とその運用
- 4) 経済生活の再建
- 5) 復興計画の策定主体・参加のシステム

##### ④災害時における心と体の健康に関する研究

- 1) 医療

- 2) 心理
- 3) 教育
- 4) 文化

**⑤原子力災害に伴う特有の問題**

- 1) 原子炉の安全性
- 2) 原子力発電のコスト
- 3) 除染・復帰に関わる問題
- 4) 原子カムラ

**⑥資料**

- 1) 年譜
- 2) 復興地図
- 3) ほか

あとがき (深澤良彰)

**2. 各論文内の標準的な構成**

- (1) 研究と活動のねらい
- (2) 研究・活動方法とプロセス
- (3) 研究・活動成果＝発見
- (4) 他の研究・活動（既存＝先行，並行）の紹介
- (5) 今後の課題

**3. 原稿枚数**

研究発表型論文（上記 2. のような構成のもの。400 字 30 枚以内＝12,000 字）  
50 論文合計 1,500 枚以内（60 万字） B5 判 500 頁（各 10 頁）相当

**4. 付帯的要素**

詳細な索引を作成し，問題と研究の所在が見つけやすくなる工夫を施す。

各論文は，すべて PDF データとして著者により個別的に配布可能とする。（抜刷は作成しない）

**5. 寄稿申し込み・執筆要領**

①締切 8 月末までに所定の書式でお申し込みください

※可及的速やかに寄稿の可否をご連絡いたします。

②執筆要領 別紙参照

③お問い合わせ先

早稲田大学出版部

「東日本大震災復興研究」編集委員会事務局

TEL: 03-3203-1551 E-mail: fukko-rombun@list.waseda.jp

**印税**

なし。ただし寄稿者（共著の場合は代表者）には，本論文集 1 冊を献本し，さらに抜刷に代えて執筆論文の PDF データを献呈（執筆者全員）

### 刊行までのスケジュール

2014年 8月1日 寄稿募集開始  
10月31日 原稿締切（編集委員による審査）  
11月 著者校正（～12月）  
※ 原稿提出順に出校します。  
2015年 1月 校了  
2015年 3月11日 完成（奥付 3月11日発行）

以上